

01

ケニアで初めてのロボットコンテストを開催

2008年11月29日、ケニアの首都ナイロビにある科学技術高等教育機関の一つ、国立ケニアポリテクニク校で、第1回ロボットコンテスト（ロボットコン）がJICAの協力のもとに開催された。科学技術省などの関係者約150人が出席する中、5つのポリテクニク校が出席し、学生、教員らによって製作されたロボットがその完成度を競った。

このコンテストは、07年にケニアに派遣された牧野修・JICA国際協力専門員（専門・電子情報通信・高等教育）が、同国の科学技術振興と人材育成を促進するため、科学技術省に提案したのがきっかけ。アジア太平洋放送連合（ABU）を通じて、科学技術省の関係者がアジア・太平洋地域で行われている大会を視察して強い印象を受け、「ぜひケニアでアフリカ初のロボットコン」と開催を決めた。

政府が設置した技術委員会を中心に準備が進められ、大統領選挙後の騒乱や暴動の影響で一度は延期されたものの、牧野専門員のアドバイスのもと、会場準備やルール設定、大会運営などをすべてケニア側が担当し、

今回の開催にこぎ着けた。

当日は、プログラムで自動制御されたロボットが、制限時間内にブロックをいくつ所定の場所へ運べるかを競い合った。ライトを輝かせながら猛スピードで暴走するもの、急に直角に曲がるもの、本番ではまったく動かなかったものなど、個性豊かな5つのロボットの奮闘ぶりに、人々の熱い視線が注がれていた。

出場した学生や教員からは、「ロボット製作を通じて機械・電気工学への理解が深まった」との声。ケニア政府は今後もJICAと協力し、ロボットを活用した科学技術・工学教育の推進や人材育成に努める考えだ。



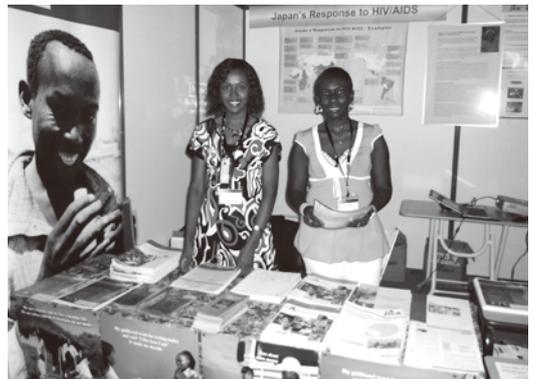
ロボットを操作するコンテスト出場者

ゆうちょ銀行「JPバンクカードポイント」とJICAの途上国支援が連携

JICAは2008年12月より、株式会社ゆうちょ銀行のクレジットカード「JPバンクカード」のポイント交換メニューとして、「ゆうちょ・JICAボランティア基金」への寄付の受付を開始した。寄付金は、JICAを通じて開発途上国の貧困削減や環境保全に活用される。詳しくは、ゆうちょ銀行JPバンクカードデスク（0120-933-000）まで。

02

03



JICAのブースではセネガル事務所のスタッフらが対応。多くの会議参加者が訪れた

第15回アフリカ地域エイズ・性感染症国際会議に参加

2008年12月3～7日、セネガルの首都ダカールで、第15回アフリカ地域エイズ・性感染症国際会議が開かれ、援助団体、NGO、国際機関、各国政府などから1万人を超える関係者が出席した。

今回の会議では、HIV／エイズ対策における「科学」「コミュニケーション」「リーダーシップ」の3つの視点の重要性とそれらの相乗効果が強調されたほか、障害者を取り巻くHIV／エイズの問題なども初めて取り上げられた。また、すべての人々が予防・ケア・治療を受けられる「ユニバーサル・アクセス」の達成に向けた各セクター間の協調と連携の必要性が確認された。

JICAからも専門家や青年海外協力隊員を含む50人以上が参加した。JICA主催のシンポジウムでは、若者へのHIV／エイズの予防・啓発活動に重点を置いたアフリカ各地でのJICAの支援を紹介。また、若者の行動変容を促すアプローチの在り方や、「若者から若者へ」と次世代にメッセージを伝えていくことの重要性と可能性が示された。